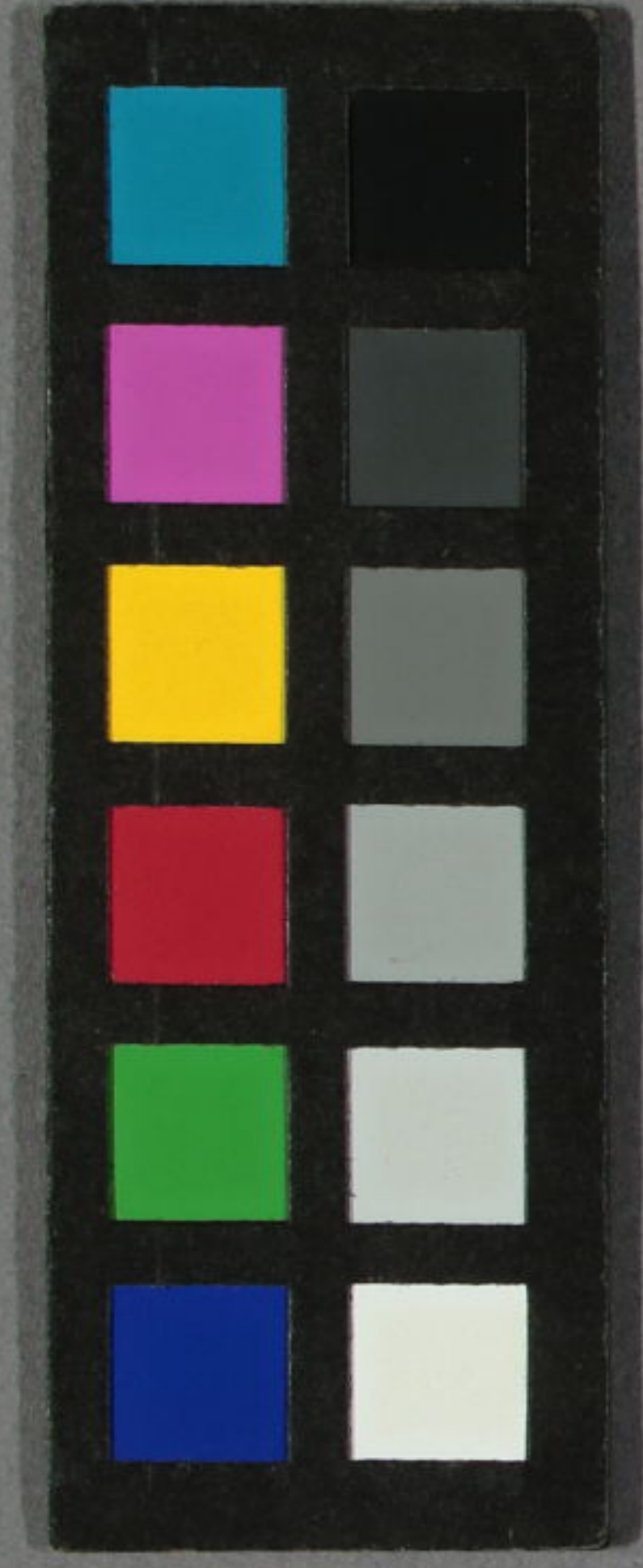


花八笑八二編

三
上

13
3209
2



門 13
號 3209
卷 2

昭和十年
七月五日
購

刻

儒者教以解惑。富家施以救貧。難矣。解
且救。鯉文先難而後獲。欲惠惑者貧者
而非。儒非富。無所苟而已矣。仰觀世俯
察情。作世話之書。名曰八笑人。讀者必
悅且娛。破眠除欠。忘倦忘憂。冬夜夏日
為短。豈不近解者救者乎。

文政四年辛巳正月

大八海老人稿

一ノ美人
花の美人のらん志やうと河を渡りて
事よらみく控或はあくととと志うじ
消日不食食平とやいそんしは清美を
あのみむ恙にあねがむらと控の樂をれ
定まあふ事とささひ花と月と
心は移せど弘伯とよもやきんこの成
連されば今よそまらるのいとわをな
のくありそんよに思ふ程とまのひ

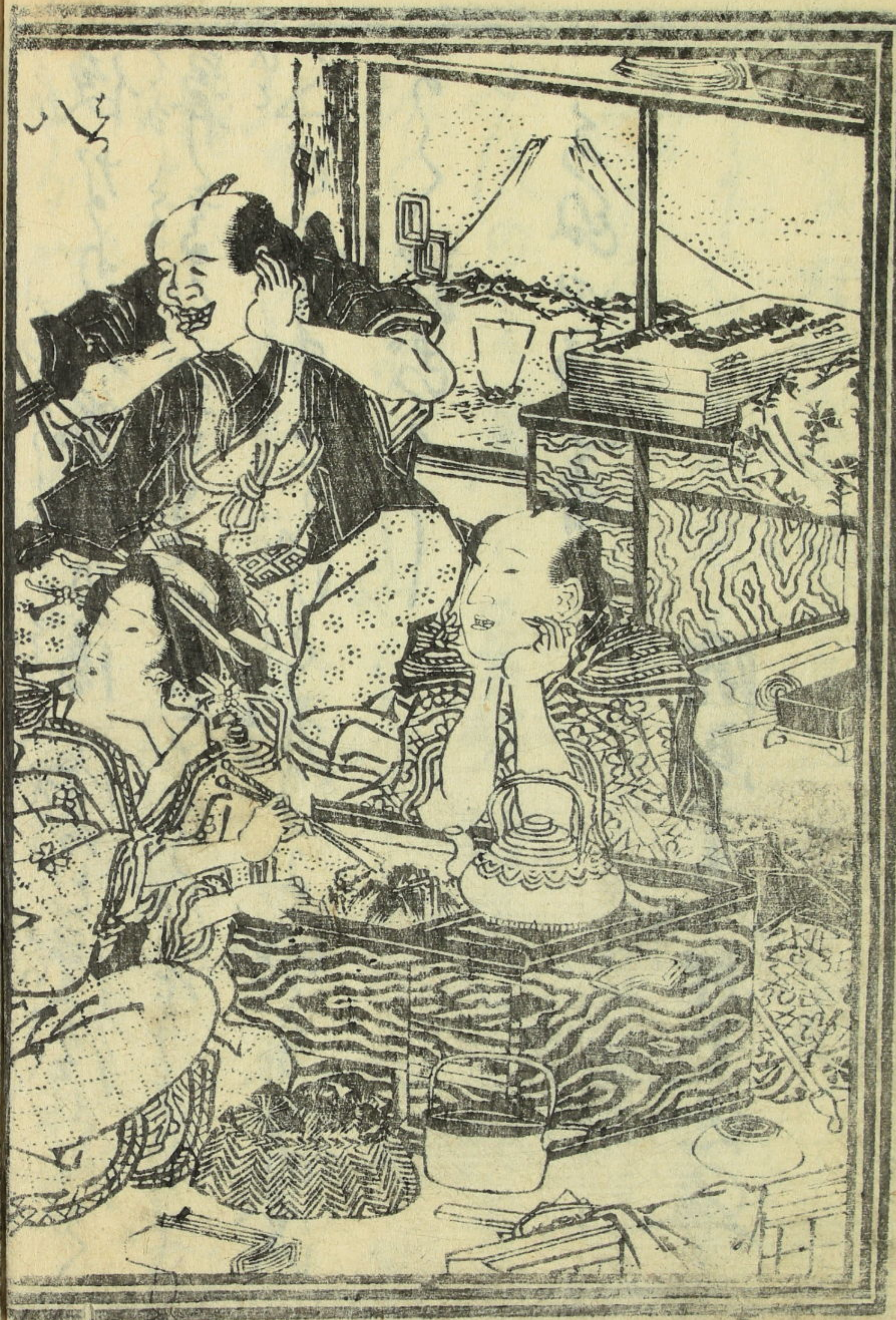
秋の原をくまらるる花の
あつくさるる
なつげしと或人平よ今と日彼小冊の
なよ著述とるや平工へ下せさるらひと
しねと著人
つらとん執長撫無の法なく若乃あ
甘しとあすサアそいれエト口塞とん
神人そとらるる

いふは先生母の書と今丁作
 志し先着者其の清極なるみく推考
 五つ成り知れどもその石友根は
 少人の書多く五智經と礼
 といふの書もやまのふれ作者
 がういふは一の撰論の考
 汗となしんば無はよ書
 くら門前奉事と極えの文永書

俊なりハ美人の後編と僅にされ
 昇りてくエシト世をひき
 人とあまのなほなるは
 といふは

今ぬの事己春

流亭主人 鯉丈誌





其二

Handwritten signature or mark at the bottom right of the page.

松まつの操まこと物語ものがたり

前編 三冊

一筆菴主人著
溪齋英泉画

松操まつまこと 解とりきの判はん断たん

後編

後編 續 巻の糸筋

畠山情の南書なまけ全三冊

同作 同画

明鳥あけとり茅かや二編

全三冊 近刻

玉たまちちるる袖そで後編

全二冊 近刻

花はな八はち笑わら人ひと二編上之巻



瀧亭鯉丈作

久ひさこの光ひかりりのどどりりとと極たぎりりたる。春はるは日ひのううららりりたる。ううせせるる
野の辺へ小こ若わ草くさののりりのの煙けむりググとと霞かすみ山やま嶺ね小こ翠すい日ひののああををりり
ここううとと閑ひまくくうう。成な果くだりりととぬぬ花はな曆か年とし々々ととくく相あ似ひてても。
日ひる々々夜よる々々のの花はなのの形かたち同おなトトかかららうう縁ゆかりのの心こころのの花はなもも櫻さくら比ひううとと
ままのの空そらふふ陽ひかり火ひののちちりりくくととるるああららああああのの好このころまま様さまととああひひてて 行ゆく
根ね花はなののささららとと帰かへるる老おきな父ちち賢けん愚ぐをを大おほ福ふくとく押おささててううかかははと

遊郭の時もさあ。彼八笑の怪人の花うんふつとて僅の
 ちあむん さあのみあつちあま。さああごうち あごご
 茶番も昨日飛鳥山共仇おも仇更ふく打のきまの入
 あむらさま あむらさま ちあむ あむ 逃ちつとて御と。八人持池
 お比花あつちあふあふふ逃ちつとて御と。八人持池
あむらさま の場酒狂亭へつとみあつ取り右池舞出目助の傍ま
 のうそと爰と。持別底や打底へ一心不足勢能宵酒あ
 りも むあつあつあふんあつ あむあつ あむあつ 即刺廻る酒あふ連とるを
 用の名名園け人物へ合茶う。即刺廻る酒あふ連とるを
 らうづまの後目の越向コレえんまが香を汁で居てのえど
 まらねんせあつていふあふあふ「あふあふよあつて初日と
 ちあふあ

あむらさま あむらさま ちあむ あむ 逃ちつとて御と。八人持池
 の場酒狂亭へつとみあつ取り右池舞出目助の傍ま
 のうそと爰と。持別底や打底へ一心不足勢能宵酒あ
 りも むあつあつあふんあつ あむあつ あむあつ 即刺廻る酒あふ連とるを
 用の名名園け人物へ合茶う。即刺廻る酒あふ連とるを
 らうづまの後目の越向コレえんまが香を汁で居てのえど
 まらねんせあつていふあふあふ「あふあふよあつて初日と
 ちあふあ

其まへに... 其まへに...
 下... 下...
 痛... 痛...
 其まへに... 其まへに...

五十が物ハ有... 五十が物ハ有...
 痛... 痛...
 荒増正本... 荒増正本...
 其まへに... 其まへに...

賈とがくちんをふよもの。川越の弁當のこりふて
拭をくくくと。米屋かむつとりふ持ごちをそんむむ
ぬ拭ご意のしめんどうまじりへ糸純公のふくろく
の井純公豆下のぬ拭へんちごんせまこれよ引や
川越の弁當と申うおあ人も申あよごく空ぜ將目油
ひごく煮染く種ごしらふ夏よ。あんとかんものごろか
だろりり買う考とねらららせんてでもとま
一大きお世枯お茶でもこのあねごとくそられるり
てぬみ ぬ拭を見んたのころぬく、とらぬ是とあふとあふ
ふりて入移へせ。こつぬ拭小巻小扇らぶへ小娘共
仕送る衣類持物ホハ歳増分後家のたぐひこの
おち尻ツクせのりりい又りびつたは氏志やアがる
百知せく己がゆふまをるえ志やアがる。以後外の物
せまあぬ何ぬく是へ狂ふつこのゆごうまが
けへ志やアぬ一向島の紙向小娘や衆増ぶの後家
だぬと入用ウ入用でハ祈たれど向島ごううそん
其版

てぬみ ぬ拭を見んたのころぬく、とらぬ是とあふとあふ
ふりて入移へせ。こつぬ拭小巻小扇らぶへ小娘共
仕送る衣類持物ホハ歳増分後家のたぐひこの
おち尻ツクせのりりい又りびつたは氏志やアがる
百知せく己がゆふまをるえ志やアがる。以後外の物
せまあぬ何ぬく是へ狂ふつこのゆごうまが
けへ志やアぬ一向島の紙向小娘や衆増ぶの後家
だぬと入用ウ入用でハ祈たれど向島ごううそん
其版

一巻八二編上

必^ひあざむくのわくろ^卒。そんちる^{こま}小菊や。こく^こがや。はき^はがら^ら
こ^こそ^こも^もま^まま^ま入^入ち^ちと^とく^くの^のさ^さめ^めへ^へ。烟^{えん}草^{そう}も^も吞^のび^ひろ^ろ鼻^びを^を
か^かま^まで^でめ^め何^{なに}も^も云^い状^{じょう}の^のれ^れや^や。あ^あん^んま^まな^なま^まく^くい^いん^ん
ど^どあ^あま^まろ^ろを^をひ^ひん^んま^まあ^あち^ちで^で改^かめ^めろ^ろ。こ^こま^まろ^ろ腰^{こし}の^の後^ご入^{いり}
を^をひ^ひら^らを^をび^びせ^せ。あ^あや^やま^まろ^ろく^く。出^いま^まま^まへ^へ。か^か入^いと^とら
つ^つち^ちど^ども^も男^{おとこ}の^の肌^{かわ}ざ^ざろ^ろろ^ろハ^ハ味^{あじ}味^{あじ}か^かつ^つろ^ろ。ま^まあ^あい^いま^まれ^れ
だ^だろ^ろ。千^ちヨ^より^りあ^あま^まろ^ろ。それ^{それ}百^{ひゃく}。こ^こん^んて^てい^いま^まこ^こし^しい^いあ^あん^ん
人^{ひと}の^の舌^{した}を^をろ^ろろ^ろく^くり^りあ^あら^らら^ら味^{あじ}味^{あじ}じ^じ。こ^こん^んて^てあ^あれ^れい^いん^ん

智^ち恵^えの^のお^お笑^{わら}み^みあ^あめ^め。サ^サア^ア是^{これ}ろ^ろ本^{ほん}積^つふ^ふお^おろ^ろ
あ^あま^まろ^ろが^がど^どの^のい^いび^びと^とら^らと^とど^ども^もぬ^ぬれ^れと^と百^{ひゃく}あ^あん^んだ^だろ^ろを^を
首^{くび}に^にあ^あま^まろ^ろく^く。こ^こん^んて^てい^いま^まこ^こし^しい^いあ^あん^ん
こ^こん^んて^てい^いま^まこ^こし^しい^いあ^あん^ん。こ^こん^んて^てい^いま^まこ^こし^しい^いあ^あん^ん
あ^あま^まろ^ろく^く。尻^{しり}の^のあ^あら^らん^ん。イ^いヤ^やハ^ハあ^あは^はま^まこ^こし^しい^いあ^あん^ん馬^{うま}鹿^かど^ども
だ^だも^もサ^サア^アそ^そわ^わろ^ろく^く。置^おく^く。な^なま^まろ^ろ。合^あい^いど^どあ^あれ^れが^が
て^てあ^あの^の。拭^ぬぎ^ぎを^を借^かり^りて^てあ^あま^まろ^ろく^く。こ^こん^んて^てい^いま^まこ^こし^しい^いあ^あん^ん土^どの^の通^とり^りを^を
あ^あま^まろ^ろく^く。草^{くさ}履^{づき}の^の古^{ふる}イ^いの^の紙^{かみ}ひ^ひろ^ろく^く腰^{こし}へ^へざ^ざら^らび^びこ^ころ^ろ。そ^そら

茶屋もくおどろけり。何れも出てあゆ。まやぶきて歩ゆ
て。大當りあるまがあらぬ。まがあらぬ。まがあらぬ。まがあらぬ。
此又面白く。まがあらぬ。まがあらぬ。まがあらぬ。まがあらぬ。
又つと夫持出あやがる。まがあらぬ。まがあらぬ。まがあらぬ。
おあるまがあらぬ。まがあらぬ。まがあらぬ。まがあらぬ。まがあらぬ。
まがあらぬ。まがあらぬ。まがあらぬ。まがあらぬ。まがあらぬ。
其形りて牛の巾前より秋葉近辺。まがあらぬ。まがあらぬ。まがあらぬ。

あぐのんごう。まがあらぬ。まがあらぬ。まがあらぬ。まがあらぬ。
「おそいおそい」お置あふま。まがあらぬ。まがあらぬ。まがあらぬ。
あぐか一艘付て居申す。まがあらぬ。まがあらぬ。まがあらぬ。
行。まがあらぬ。まがあらぬ。まがあらぬ。まがあらぬ。まがあらぬ。
て。始終極よく。まがあらぬ。まがあらぬ。まがあらぬ。まがあらぬ。
何れ。まがあらぬ。まがあらぬ。まがあらぬ。まがあらぬ。まがあらぬ。
をまげを。まがあらぬ。まがあらぬ。まがあらぬ。まがあらぬ。まがあらぬ。
ホンと當り。まがあらぬ。まがあらぬ。まがあらぬ。まがあらぬ。まがあらぬ。

是ハクニ〜
〜
〜
〜
〜
〜

百条百中〜
〜
〜
〜
〜
〜

トヤヤ〜
〜
〜
〜
〜
〜

礼の〜
〜
〜
〜
〜
〜

久〜
〜
〜
〜
〜
〜

そりや〜
〜
〜
〜
〜
〜

愛〜
〜
〜
〜
〜
〜

て〜
〜
〜
〜
〜
〜

おら〜
〜
〜
〜
〜
〜

も〜
〜
〜
〜
〜
〜

ア〜
〜
〜
〜
〜
〜

八笑人二編上

九

と。あやぐり子こが。此子こへ元もとだたととららどどりりのの言ことばをを出だすすのの

 ちちとと。流ながれれくくええんんどどととカカンンととモモツツくくたたららししめめたたるる

 一いちヨよホほミみのの子ことと拍う戸たががひひとと

 何なにががああららけけハハ始はじめ終つひつつももちちろろううととののみみカカんんががああららとと見み

 つつるる一いちナなニに角かくカかホほととままままどどのの後あと一いちヨよホほミみののままままどどのの尿う保ほとと

 たたままにに根ねををよよままししててままままどどのの一いちヨよホほミみののままままどどのの口くちがが

 ちちろろううととももちちろろううととももねね入い時ときふふららんんちちろろううとと。狂くる乱らんとと一いち巻まき

 弾ひくくちちろろううととももねね入い時ときふふららんんちちろろううとと。狂くる乱らんとと一いち巻まき

有ありりのの野の原の公こうがが一いち番ばんのの作さくららううとといいふふ存ぞん心しん

 ちちろろううととももちちろろううととももねね入い時ときふふららんんちちろろううとと。狂くる乱らんとと一いち巻まき

 ちちろろううととももちちろろううととももねね入い時ときふふららんんちちろろううとと。狂くる乱らんとと一いち巻まき

 見み分ぶんををももちちろろううととももねね入い時ときふふららんんちちろろううとと。狂くる乱らんとと一いち巻まき

 一いちヨよホほミみのの子ことと拍う戸たががひひとと

 一いちヨよホほミみのの子ことと拍う戸たががひひとと

 一いちヨよホほミみのの子ことと拍う戸たががひひとと

 一いちヨよホほミみのの子ことと拍う戸たががひひとと

ホウ。千リカヲ。ハア「我々」^{わが}と^らの^{あは}扇^{あふ}を^たら^して^ひひ^らひ
て。一トツギツリ^つ中^{ちゆう}く。の^あけ^あら^し。扇^{あふ}を^たら^して^ひひ^らひ
ろ^ろ一^い成^{せい}程^{てい}を^まふ^らひ^し。あ^あは^はく^くま^まら^らん^んと^とん
あ^あら^らふ^ふよ^よ一^いそ^そま^まの^の。ひ^ひら^らく^くま^まら^らん^んも^も淋^{しみ}一^いそ^そま^まの^の「^たら^らし^し」
草^{くさ}も^も冬^{ふゆ}拵^{ぢう}く^く一^いそ^そま^まの^の。あ^あは^はく^くま^まら^らん^んと^とん
が^がら^らろ^ろろ^ろ。花^{はな}中^{ちゆう}く^くの^の。あ^あは^はく^くま^まら^らん^んと^とん
荒^{あらい}か^かく^くせ^せね^ね一^いそ^そま^まの^の。あ^あは^はく^くま^まら^らん^んと^とん
一^いそ^そま^まの^の。あ^あは^はく^くま^まら^らん^んと^とん
一^いそ^そま^まの^の。あ^あは^はく^くま^まら^らん^んと^とん

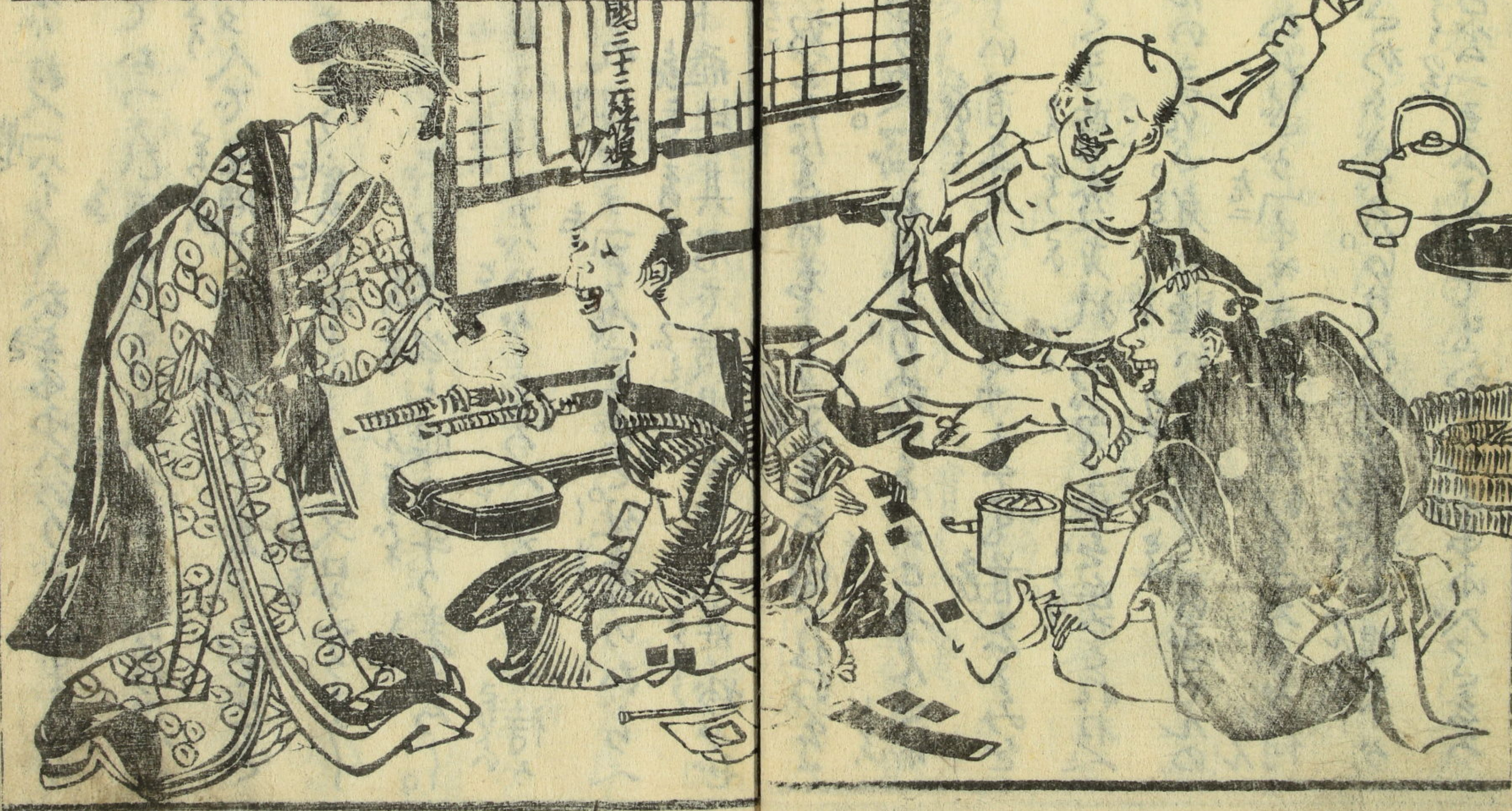
そ^そま^まの^の。あ^あは^はく^くま^まら^らん^んと^とん
の^の。あ^あは^はく^くま^まら^らん^んと^とん
が^がト^ト。あ^あは^はく^くま^まら^らん^んと^とん
あ^あは^はく^くま^まら^らん^んと^とん
く^くら^ら。あ^あは^はく^くま^まら^らん^んと^とん
ま^まの^の。あ^あは^はく^くま^まら^らん^んと^とん
分^{ぶん}そ^そま^まの^の。あ^あは^はく^くま^まら^らん^んと^とん
よ^よろ^ろろ^ろふ^ふナ^ナ野^の宮^{みや}公^{こう}一^いそ^そま^まの^の。あ^あは^はく^くま^まら^らん^んと^とん

一 卷ノ二編ニ
一
十三

茂士も
 ちんちん
 めろろん
 ちんちん
 まの
 うく
 夷の
 山門
 毒系
 伊世



八段八二編上



十四

のめあり仕方がねへハイくおまきゆかりのまほまほひが
ねふ甘うなさらそかつて下さるまへ一イ井さうらみッポイ
古をりうた。二女人で立廻でも案トさう。そごご
あつちの二階よあさう。あまであらう。又口がやうまへ
かろう。あまが元とけまがり。卒公と眼公斗りまさう。
見物よまがらて居る侍ハアバ公がよろろふ。又あまが侍ろ
キヨツ兎角ゆくまれ役ごう。そのまごまご。仕舞のおちへ
車まで船へびよいト飛込其形で報頃とらると。寄妙ダゼ

うららうとでも立廻の跡で船へ飛込ん。息う切て
えまもねんせ。そのアア死をつく内へ大小でうけり
を小長く打て居る。ゆうと息うつけ。うらうらうら
うらうらうらうら。出目公し一口ゆて。まごまごうら。折
の折。け郎。都合が。うらうら。ま
ま。半口とあうてえね。うらうら。晒落ハ出ねん
ね。ライ頭武州野呂公が所作して居る。のろ
り。アバ公と。うらうらとあて立廻りと。つけく。ん

八十八二編二

一七

カアおびるさんころら二階とちやせう坊へ夜
たつとつと目焼くころらして置かり卒公眼公サア
野何を志て居るヨ子ヨツト下ロかん茶を付げて
いひてク一のめんぢぢのまじ極入今度の催しぬ
人ふ氣をとりませるさふねく自分の茶番志やアねんが
コツト兼知くサアゆせう。頭武公立廻りと美味く
頼せしんだまうて行ひ。箸を持って喰斗りよと付て
いひサアいひしく善好さん宜ちのまじト申は二階へ行くアガ公

たもまうをり持てびうそうとせよ入せしめそつておれ
か後廻りのはたテ斗ごう。所作よりタテでぶつめてくれべエ
いひもくましく。多荒まう一筋を立てテ子エ。そまうか小枝ハ
おまうを付てくまう。一ようろく。鬼角タテハ茶どろが
かんかんせしちぢねく。まじまじらうハ禁どろが下
いひごと。香がコリイヨ。どぶも素切とりつても。とろく山を介て
いひサア。ころら。ヨ随分洒落るものぢ。あんまりかんま
おまうら。ころら。ころら。わご。おまう。アたらして見よ入ぢも

素人細工のハ。胸でとせんと。千ヨイトおつ建とと云次
 中りらねん。あんでも最初りり。早く押合てりるゲ一チだん
 早イヨ。其如くニ人でも績をぬらして下ろし。サア頭武公
 コットをまきして先胸倉へらるうらあう。てんろ胸倉でも
 ある。ららうらトまア向ツかへト行きナノイブろく
 七ロビシヨウトシク一そでもあんとよツかくとせくと。
 鼻づらをぶらぶらして只ツカ斗をせまうけらねんぞ。
 七七云禁賢斗の取ぞ。まき集へよを掛けて引戻すとハ

七七云鼻血のあんののぐねんニヨキまきして七七云
 そそりり跡をうとさせんと。な腰にさうもまき
 七七云一ナノットららうアアのまけらるぞ
 七七云尻をぶらぶらとりのサ一七七云もぶらぶら
 七七云とららうヨ一七七云をうらての。みりそみるのささる
 七七云アツラたうのふらと。あまがふと拂ふてりて入る。を
 七七云おひびくさるヨ一七七云堪堪をねんどもまがく。イ
 七七云ありあう。てだ立ちて斗ぞ。腰のふを拂てりて

ゆき下も又いそいでるまもねわつてなぞふちらと男ふ
「まもねわつてなぞふちらと男ふ」
「まもねわつてなぞふちらと男ふ」
「まもねわつてなぞふちらと男ふ」
「まもねわつてなぞふちらと男ふ」
「まもねわつてなぞふちらと男ふ」
「まもねわつてなぞふちらと男ふ」
「まもねわつてなぞふちらと男ふ」
「まもねわつてなぞふちらと男ふ」
「まもねわつてなぞふちらと男ふ」
「まもねわつてなぞふちらと男ふ」

わがまうしうもあつて「まもねわつてなぞふちらと男ふ」
まねりとりあふ。春公笑つてしむと。まもねわつてなぞふちらと男ふ
下が「まもねわつてなぞふちらと男ふ」
「まもねわつてなぞふちらと男ふ」
「まもねわつてなぞふちらと男ふ」
「まもねわつてなぞふちらと男ふ」
「まもねわつてなぞふちらと男ふ」
「まもねわつてなぞふちらと男ふ」
「まもねわつてなぞふちらと男ふ」
「まもねわつてなぞふちらと男ふ」
「まもねわつてなぞふちらと男ふ」
「まもねわつてなぞふちらと男ふ」

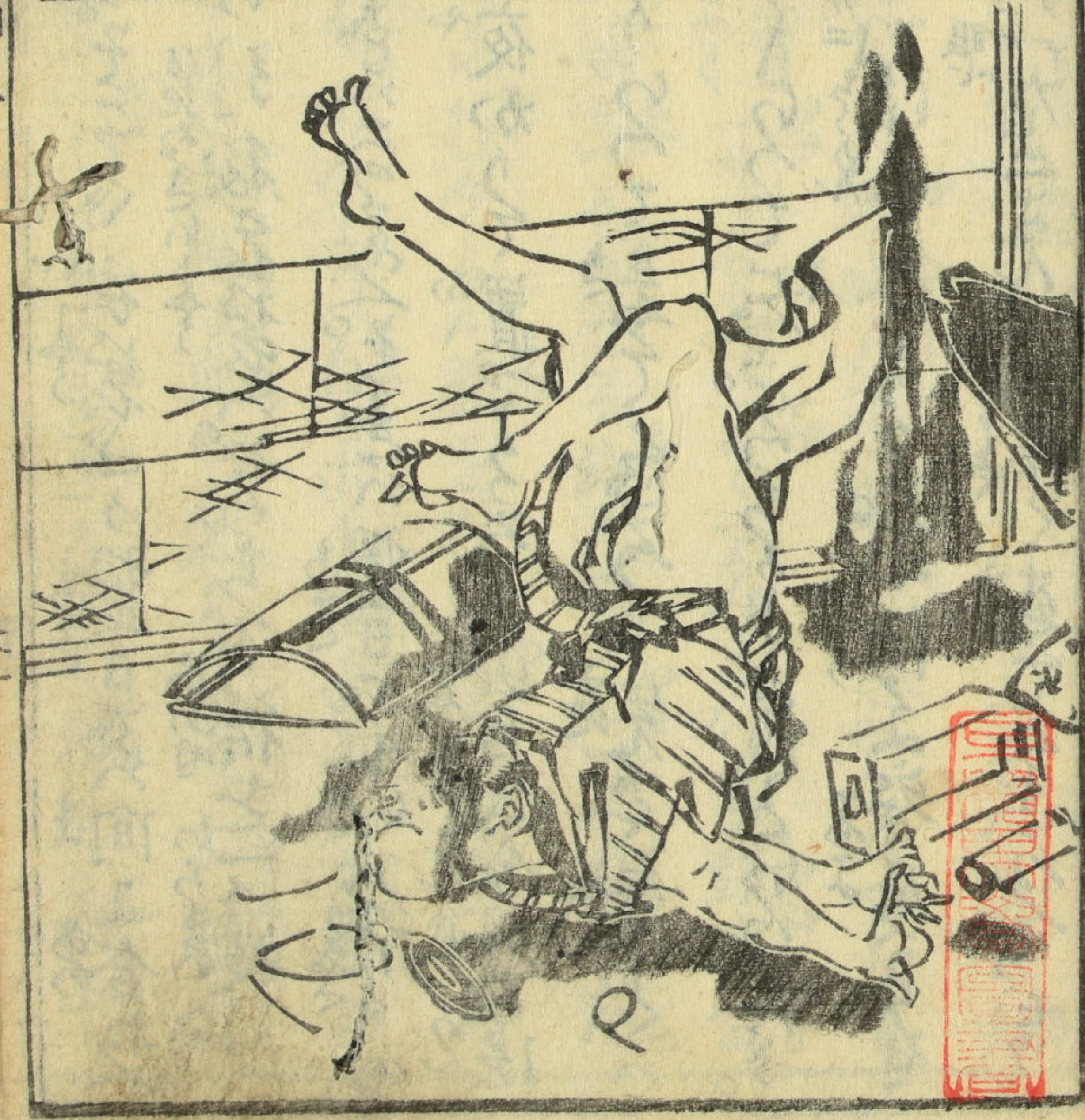
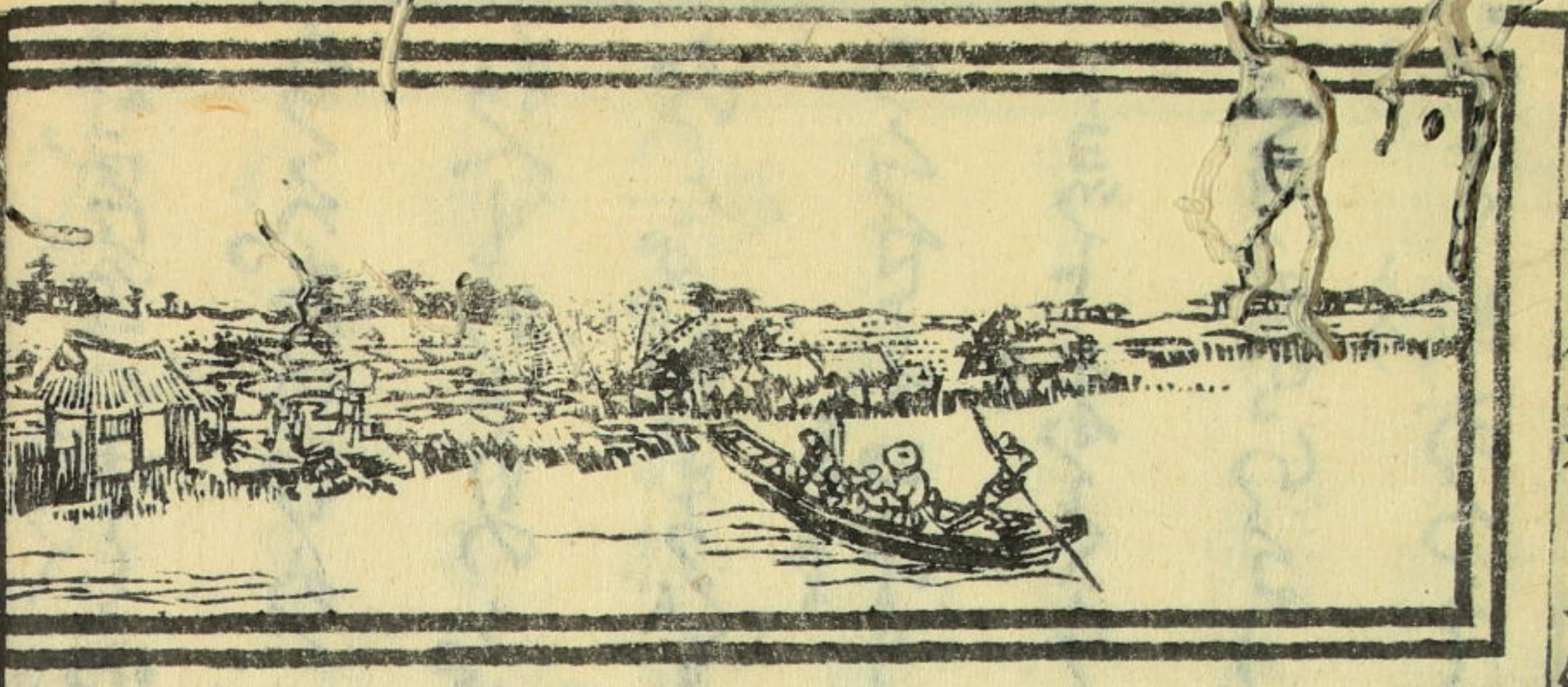
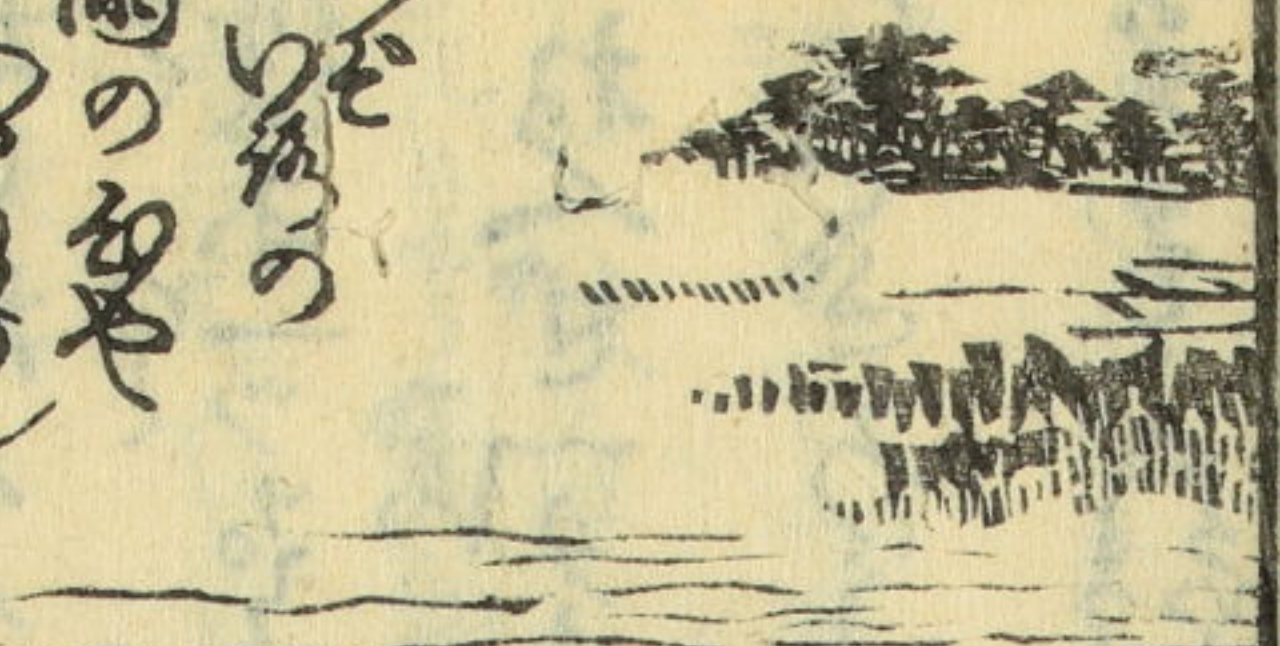
我儘

「まもねわつてなぞふちらと男ふ」

頭武公のくんまうかおそろうくちうてから。
 味ガコウくちうて。たまにせうんぐ「頭武公も
 ちうんてう。そとせと登しうてツケ「オオオ」も
 ねんが「ぬくてもうてそとで天窓うう湯氣が立
 こつちうねんて下男ガたねん心持よまうてう。
 息「むら呑公湯でも水もくまねんうまのまら
 ねん後「つ」の院の接つてう。後「も」がうも
 の「こ」と「つ」にうてう。こねてうねんう

野原公ハ中々出たあせ。そとてもそつちうて出たそと
 ちうねんねん「ん」は是「た」の立廻りをててうも出来
 ねんも「の」のう。ア頭武公「そ」も「ん」と「の」も内證
 おと「た」も「ひ」もくとも「く」二階「つ」つらも「びり
 の」せう「口」つら連者「た」二階「う」「う」を「二」さんく
 千ヨット「ま」く「ん」ねん「稀」荷町の何をて「の」も「あ
 取あつうう「コ」金泊のつ「イ」サく「ア」サ「の

かぞ
り後の
雨のちや
うまん
せうしん
せいの
川風
あま
あま



あついでいそんちるが寝るの寝るの。たたく付うてやらう。
内ゆわわくうごんな寝るでも。まゝの寝るでかゝる人。
る無く一の役者だ紅ごのいでとあるあゝんぞ業と
かつてこゝろあゝのたかひの喰言度が出まわると。
き味どナ一そつてもあまやぶりも出来ど。くかろ
そつてす。毛がわんの舌喰もどめとりのあゝんぞ業と
とつてあまやぶりあるこれど。女弟の絨と。トのまま業と
アバ公の舌ア喰ウあまアモウのり。アゝんぞ業と。

怪我人が何うあつてなると付をさるせ。ナニとなくあま
似をさるア観とあまやぶりせとりのあゝんぞ業と
でもさるのいろう一ツの業ヨツレ紙。ナダトしつらさるれ
あまのろでわわん舌。喰て。トのりおあつてあま
やアグうん
あまのろでわわん舌。喰て。トのりおあつてあま
やアグうん

八笑人二編上之巻



